

**第235号紙面案内**

第2面～第3面・・・理事会・会員総会報告

第4面・・・山城賞募集のご案内

第5面・・・第53回全国研究大会自由論題報告の募集

第52回全国研究大会統一論題解題

大会実行委員長 増田 茂樹 (愛知産業大学)

日本経営教育学会は発足してまる26年。産業界の現実はどうか。頻頻とどこかの経営者が「申し訳ありません」と深々と頭を下げている。その無能ぶりにあきれるところか怒りすらおぼえる。経営教育はできているのか。

最近、わが学会機関誌 Vol. 6、7、8において、「経営学者は経営教育ができるか」をめぐって、齊藤毅憲氏 (横浜市立大学) と辻村宏和氏 (中部大学) との間で激しい論争が行われている。「できる！大いにやるべし！ (齊藤)」「できない！経営教育学はできるが！ (辻村)」。この問題 (疑問) は本学会発足時から今日までずっとその底流にあった問題であり、「経営教育」の学会である本学会のアイデンティティに関わる問題である。

この問題に解答を見つけて本学会員が共通の理解に到達し、本学会の学問をより充実し発展させるためには、結局、経営教育は「(a) 誰が、(b) 誰に、(c) 何を、(d) どのように」教えるか、経営教育とは何かを、ここで「反省」してみる必要がある。

このことから、『経営教育・誰が誰に何をどのように教えるか』を統一論題とした。この問いに対して、増田茂樹 (愛知産業大学)、吉田優治 (千葉商科大学)、佐々徹 (横浜商科大学)、杉忠重 (経営研究所) の各氏は「報告者」として端的に答えて自己の見解を明確化する。でき得れば齊藤理論、辻村理論の中に含まれている上記 (a)、(b)、(c)、(d) に関する主張に対して、どこが異なるか (どこが同じか) を指摘する。辻村宏和、井之川義明 (株・マルチメックス) 両氏を「討論者」として、出席会員諸氏皆が参加する活発なシンポジウムをもちたい。

愛知産業大学 (岡崎キャンパス) はアクセスの面で必ずしも便利とは言えませんが、その分小高い岡の上、緑豊かで風も爽やか、静かで美しいキャンパスです。しばし世の中の喧騒を逃れて、深い思索をめぐらすには最適の場です。どうぞ万障繰り合わせご参加くださり、わが学会の飛躍の場、飛躍の時としていただきとうございます。来る10月28日 (金) ～30日 (日) の3日間です。お待ちしております。

第1回理事会報告・平成17年度会員総会報告

去る平成17年6月24日（金）、明治大学駿河台校舎研究棟にて、平成17年度第1回理事会が開催され、本理事会での審議を経て、同年6月25日（土）、明治大学駿河台校舎リビティタワーにて平成17年度会員総会が開催されました。

以下、審議の結果を報告いたします。

(1)平成16年度活動報告並びに収支決算の件

平成16年度の学会活動および収支決算について報告と説明があり、承認された。

(2)平成17年度活動計画並びに収支予算の件

平成17年度の活動計画および収支予算について報告と説明があり、承認された。

(3)会計監査報告

監事より報告があり、承認された。

(4)産学交流研究集会について

準備状況が報告された。

(5)創立25周年記念行事について

25周年編集委員会（齊藤毅憲委員長）のもとでの「経営教育事典」発行の進捗状況が報告され、承認された。

(6)第52回全国研究大会について

第52回全国研究大会について、平成17年10月28日（金）～30日（日）にわたって、愛知産業大学にて「経営教育・誰が誰に何をどのように教えるか」という統一論題のもとで開催されることが報告された。また、増田茂樹大会実行委員長のご挨拶があった。

(7)機関誌編集委員会について

昨年度の活動並びに今年度の活動計画について報告と説明があった。

(8)山城賞選考委員会について

昨年度の活動並びに今年度の活動計画について報告と説明があった。

(9)会報委員会について

昨年度の活動並びに今年度の活動計画について報告と説明があった。

(10)国際交流委員会

昨年度の活動並びに今年度の活動計画について報告と説明があった。

(11)地域部会からの報告

昨年度の活動並びに今年度の活動計画について報告と説明があった。

(12)会員の入退会について

24名の入会、5名の退会が報告され、承認された（個人会員865名、法人会員11社）。

第2回理事会報告

平成17年8月2日(火)、日本大学商学部にて平成17年度第2回理事会が開催されました。以下、審議の結果を報告します。

(1)第52回全国研究大会の準備状況の報告

(2)産学交流研究集会の準備状況の報告

(3)各委員会より

会報の内容・ミスについて問題提起があり、内容改善のため、年間の予定表の作成や会報作成プロセスを検討することとした。

(4)会員入退会について

3名の入会、2名の退会が承認された(個人会員866名、法人会員11社)。

(5)その他

①8月6日(土)新潟国際情報大学での関東部会の開催が報告された。

②第53回全国研究大会を、和光大学で開催することが承認された。

会報発行体制の見直しと事務局移転の予定について

会長 飢富 順久

会報第234号におきまして重大なミスが発覚いたしました。関係者はもとより会員各位にもご迷惑をおかけ致しまして、ここに改めてお詫び申し上げる次第でございます。

今後このようなことのないよう割りつけ・校正のチェック体制を見直すことと致しました。とくに、初校と再校につきましては記事の発信部署(委員会等)の責任者にチェックをお願いし、最終校正は会報委員長をはじめ会長、総務委員長が行うことと致しました。今後とも会員の皆様方のご支援をお願いする次第です。

また、ご迷惑をおかけしておりますが、来月から本学会の事務局が変更になる予定です。新事務局が確定次第お知らせ致しますので暫くお待ちください。

会報第234号についてのお詫び

会報委員長 上野 哲郎

第234号の会報におきまして、日付の誤りまた内容に不適切な部分がありました。ここに、多大なるご迷惑をおかけいたしました関係者の方々また会員の皆様方に心よりお詫び申し上げます。今後は、このような事が起こらないよう会報の編集体制を見直し努力をいたす所存でございます。

◇◇第32回中部部会のご案内◇◇

日時：平成17年11月12日(土) 13:30~17:00 参加費：¥500

会場：中京大学名古屋キャンパス0号館6階0604教室(名古屋市昭和区八事本町101-2)

◇部会終了後に懇親会を行いますので是非ご参加ください。懇親会費は¥3,500です。

◇お問い合わせは中部部会事務局の堀田友三郎まで。E-Mail: hotta@asu.ac.jp

山城賞募集のご案内

山城賞選考委員長 富田 忠義 (獨協大学)

日本経営教育学会山城賞を下記要領にて募集いたします。奮ってご応募ください。

○応募方法：自薦・他薦いずれも可

○選考対象：平成16年10月1日～平成17年9月30日の1年間に刊行された著書
本学会員による単著で、日本語で書かれたもの。

○提出すべきもの

◇自薦の場合

- ・著書3冊
- ・内容要旨 (A4サイズで1,200字程度のもの)

◇他薦の場合

- ・内容要旨 (A4サイズで1,200字程度のもの)
- ・推薦書 (A4サイズで、以下の6項目を記したのもの)
 - ①推薦者氏名
 - ②推薦者所属機関
 - ③推薦者の連絡先 (郵便番号、住所、電話・FAX番号、E-mailアドレス)
 - ④書名および著者名
 - ⑤出版社および発行年月日
 - ⑥推薦理由 (1,200字程度)

○応募締切：平成17年12月9日 (金) 必着

上記提出物を期限までに山城賞選考委員長富田忠義宛郵送してください。
封筒には「山城賞選考資料在中」と朱書きしてください。

○選考基準：本学会設立の趣旨である以下の3点によって選考いたします。

- ① 経営体の諸活動に関する実践的研究
- ② 日本的経営および国際的経営の研究
- ③ 経営者・管理者の実践能力を育成するための経営教育の研究

(以上、日本経営教育学会山城賞規程による)

※選考対象要件などの詳細は下記にお問い合わせ下さい。

○応募先・お問い合わせ先

山城賞選考委員長 富田忠義

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

獨協大学経済学部 富田忠義研究室

TEL・FAX：048-922-4558 (自宅)

E-Mail：tomita_h@cg8.so-net.ne.jp

第53回全国研究大会 自由論題報告の募集

平成18年6月(予定)に開催される第53回全国研究大会(開催校:和光大学、東京都町田市)での自由論題報告を募集します。下記要領に従ってお申し込みください。

<応募要領>

1. 応募資格:本学会の会員

ただし、1年以内に報告された方の応募はご遠慮ください。

2. テーマ:本学会の目的に沿う以下のもの

- ・経営体の諸活動に関する実践的研究
- ・日本的経営および国際的経営の研究
- ・経営者・管理者の実践能力を育成するための経営教育の研究

3. 応募書類:応募には表紙、報告要旨、参考文献の3点が必要です。

- ・表紙(A4サイズ1枚)……以下①~④を明示してください。体裁は任意です。

①氏名(漢字・仮名およびアルファベット)

②報告テーマ

③所属(現職および職位)

④連絡先(自宅および所属先の電話番号・FAX番号、E-mailアドレス)

- ・報告要旨(A4サイズ、用紙縦置き横書きで2枚以内)

以下①、②の書式により要旨を作成してください。要旨には問題意識、論点、結論等を必ず含めてください。

①字数は40字×30行(1ページ1,200字)、10.5ポイント、余白は上下左右各25mm

②報告テーマはゴシック体、要旨は明朝体

- ・参考文献(A4サイズ1枚)……書式は報告要旨に準じます。

参考文献は内容と密接に関係するものにとどめ、関係の薄いものは控えてください。

上記書類を締切期日までに郵送または電子メールでお送りください。

4. 締 切:平成17年10月22日(土) 必着

5. 応募先・お問い合わせ先

日本経営教育学会 第53回大会・大会委員長 佐久間信夫

〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236

創価大学経営学部 佐久間信夫研究室

TEL 0426(91)6994 E-mail nsakuma@soka.ac.jp

(今回の応募先は学会事務局ではありませんのでお間違えないようご注意ください)

第51回全国研究大会

大会参加記 ー明治大学ー

松村 洋平 (青森中央学院大学)

母校での第51回全国研究大会に期待に胸躍らせて参加しました。前回の第20回全国研究大会は、思い出深い大会です。当時、学部生でしたが、幸運にも学会のお手伝いをする機会を得て、はじめて学会の空気を体験したのです。厳粛な空気のもと、活発な議論が交わされ、圧倒されたのを覚えています。

今回の全国研究大会の統一論題は、「現代経営におけるプロフェッショナルとその育成」であり、組織と個人の関係が揺らぐ今日、経営教育における大きな課題の一つと考えます。

統一論題報告では、茂木賢三郎氏による「日本における教育システムの問題点と経営教育のあり方」は、経営教育以前の教育のあり方に対する提言で、印象深いものでした。改めて、教育の大切さと難しさを感じるとともに、経営教育による実践的な教育が今日の教育が抱える問題に一石を投じることができるのではないかと、という感想を抱きました。

また、自由論題報告では、佐々木利廣先生による「プロジェクト X とキャリア教育ーキャリア支援インフラの可能性ー」は、京都産業大学のキャリア支援への取り組みと積み重ねについて拝聴することができ、貴重な示唆をいただくことができました。

前回と同様、今回の母校の全国研究大会も、示唆深く、刺激多き、実りあるものであり、身の引き締まる思いで青森に帰ってきました。

最後になりましたが、今回の全国研究大会を主催されました明治大学の小笠原英司先生をはじめ諸先生方に厚く御礼申し上げる次第です。

関西部会だより

平成17年度第1回関西部会報告 (平成17年6月開催)

関西部会長 王 耀鐘 (関西大学)

平成17年6月11日(土)13時30分から、関西大学の百周年記念会館にて関西部会が開催された。第1報告は、西下政宏氏(総務省近畿管区行政評価局大阪総合行政相談所)で、テーマは「危機管理モデルで問うーあなたの家庭、会社、国は大丈夫かー」であった。第2報告は北居明氏(大阪府立大学大学院助教授)で、テーマは「組織文化の定量的研究の展開と課題」であった。

報告終了後、引き続き17時から関西大学新関大会館4Fのレストラン Bon Plat において懇親会が開催された。出席者は30名であった。

第2回関西部会は12月3日(土)を予定しています。場所は大阪のドーンセンターで、報告会のあと、例年通り忘年会を行います。テーマが決まり次第改めて会員の皆様にご連絡申し上げます。

第51回全国研究大会

工場見学記 —キューピー仙川工場—

木村 有里 (杏林大学)

第51回大会の施設見学として、日本経営教育学会一行30名はキューピー仙川工場を訪問した。仙川工場は昭和26年に設立され、現在、マヨネーズを中心に年間生産数量54,000tと関東地区のメイン工場であり、また、生産技術の開発現場として本社工場の役割もはたしている。工場長からは、都市型工場として、騒音問題、カラス対策など近隣住民との共存のための努力についてもお話しがあった。その後、マヨネーズの歴史や製法をビデオで学習。毎分600個を割り、黄身と白身を分けることのできる高速割卵機と、フルオートメーションのマヨネーズ充填ラインを見学。と、ここまでは一般の工場見学コースと同じ。

ここから、2班にわかれ、通常では入ることのできない製造ラインの間際まで下りて見学することになった。そのため、各種衛生カバーを全身に装着するのも一苦勞。手洗い、消毒、エアシャワーなど、衛生管理も楽しい体験。各ラインでは女性リーダーが説明にあたってくれた。卵は、壊れやすく繊細な原料であり、生き物の命そのものである。熱っぽい語り口に、それぞれが卵に真剣に向き合っていることが伝わってくる。嫌コレステロール、アレルギーなど、食卓における卵製品は決して安泰ではない。また、O157や鳥インフルエンザと、困難な課題に直面しているが、高品質は現場の笑顔からと「ニコニコ工場を目指そう！」のキャッチフレーズのもと、各所にキューピーちゃんや、従業員の笑顔の写真が貼られ、前向きな明るさが感じられた。見学の最後に、キューピー製品の試食会を催していただき、一行も美味しい喜びとともにニコニコと工場を後にした。※キューピーは、ユが大文字が正しい会社名です。

関東部会だより

平成17年度第2回関東部会報告 (平成17年8月実施)

小野瀬 拓 (東洋大学大学院)

平成17年度第2回関東部会は、平成17年8月6日(土)13:30より、新潟国際情報大学新潟中央キャンパスにて行われた。

第1報告は、成果主義の導入および成功に関する仮説検証をおこなった庄司祐子氏(MBA キャリアデザイン研究所)による「日本型人事制度の研究-成果主義導入のケース-」であった。第2報告は、実際にシミュレーションモデルを提示して、その効果を明らかにした佐々木桐子氏(新潟国際情報大学)による「経営工学におけるシミュレーション技術の活用方法および教育方法」であった。第3報告は、重要性が増大している組み込み系ソフトウェアに関する諸課題を提示した内田賢氏(東京学芸大学)による「情報サービス産業の経営課題-組み込みソフトを中心に-」であった。3報告ともフロアとの活発な質疑応答がなされ、終了後の懇親会(新潟駅前「肴いちば」)においても議論は続いた。

第52回全国研究大会
開催校案内

愛知産業大学

堀田 友三郎 (愛知産業大学)

愛知産業大学は徳川家康生誕の地、愛知県岡崎市にあります。名古屋駅から名鉄電車名古屋本線で快速特急豊橋行きに乗り、東岡崎で普通電車に乗り換え藤川駅下車、大学バスで3分です(徒歩15分)。名古屋駅から藤川駅は41分、この藤川は東海道五十三次の江戸から37宿目「藤川宿」で有名な地です。岡崎市東部丘陵地(原山)にあり、岡崎の町を一望できます。国道1号線沿いにあります。

愛知産業大学は平成4年開設の新しい大学で造形学部(デザイン学科、建築学科)、経営学部(ビジネスマネジメント学科、経営環境学科)、通信教育部(造形学部、短期大学英語科、経営学科)の小規模な大学です。今年4月に大学院造形学研究科を設置しました。

本学を設置する学校法人愛知産業大学の歴史は昭和26年設置された学校法人常懐学園に遡ります。工業高等学校をスタートとして現在、高等学校2校、中学校1校、専門学校3校、幼稚園1校が運営されています。学生生徒数は約1万2千名(通信教育生含む)が在籍しています。

本学経営学部は平成12年4月に増田茂樹初代学部長によって開設されました。“KAE”に基づく経営学、つまり実践経営学を確立することを目途としてスタートしました。学生一人ひとりが自らの経営実践能力『A-ability』を高め、身につけ、「できる経営人」「できるビジネス・パーソン」になってもらうことが願いです。簿記やコンピュータ、財務やマーケティング、そして労務や法律・民法、経済・社会、あるいは経営管理やビジネス・リーダーシップなどをただ単に知る『K-knowledge』だけでなく、実際に行動し『E-experience』、身体でできる(A)までにする。すなわち「できること(A)」こそが目標です。

教育の特色として3つあります。1つ目は3年次必修の「経営哲学特講」です。隔週で経営者を招き『経営哲学』を開陳していただいています。年間14名の経営者にお話しいただき、すでに50名を超える経営者をお招きしました。今年6月トヨタ自動車(株)社長に就任された渡邊氏にも昨年6月にご出講願いました。講演後に受講する学生から活発な質疑が出る場面も目にします。聴講後にレポートを作成し、なかには専門ゼミで当該企業を直接訪問する場合もあります。実践経営学を学ぶ大きな場面です。2つ目に「オフキャンパス・ワークショップ(インターンシップ)」、3つ目は専門ゼミナールです(詳細は本学案内書に掲載していますのでご覧ください)。

交通の便がけっして良いといえない立地ですが、緑の環境に恵まれた大学であります。多数の会員の皆様方にご参加いただきますようお願いいたします。

編集後記

会報第235号をお届けします。来月行われる全国研究大会へのご参加をお待ちしています。会報へのご意見・ご感想もどうぞお寄せください。

上野哲郎・青淵正幸

発行 日本経営教育学会

東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館9F 〒100-8448
財団法人企業経営通信学院(担当:佐久間)
TEL 03-3282-6211 FAX 03-5220-4869
e-mail: name@yutori.or.jp